

サミュエル・アバル駐日パプアニューギニア大使 歓迎会

川口 正義 (当協会理事)

11月15日(水)夕刻、虎ノ門・霞山会館。

コロナでできなかった駐日大使の歓迎会がようやく開催の運びとなりました。50人の方が参集され、アバル大使のお話に聞き入りました。

「PNGは外国とのコネクトが必要です。特に日本とは。PNGにはリソースがあります。一方日本には技術・お金・能力と良く働くというメンタリティーがあります。もっと日本とPNGの間でビジネスを発展させたいです」

2年前に既に赴任されている大使は、思いの丈を存分にお話しいただきました。また大の日本びいきのお方で、首相から駐日大使の打診があったときも、即答で受諾されたとのこと。

パーティでは、大使も参加者とフレンドリーによくお話をされ、また大使のご家族も交えた和やかな歓迎会となりました。



アバル大使



田中和徳 日本・PNG 友好議員連盟会長



及川 当協会 副会長



橋 当協会 会長



アバル大使ご到着



会場受付



逐次通訳 当協会 辻理事

CURRICULUM VITAE-SAMUEL ABAL

<u>Married</u>	Madam Anna Abal with 4 Children
<u>Date of Birth</u>	26 June 1958
<u>Education</u>	1975-1979 Bachelor of Arts, University of Papua New Guinea Diploma in Journalism, University of Papua New Guinea Diploma in International Relations, University of Sorbonne (IIAP), Paris, France (Diplomatic Training)
<u>Carrier</u>	1980-1980 Department of Foreign Affairs and Trade, Port Moresby, HQs
	1983-1986 Papua New Guinea Mission to EU, Brussels as Second Secretary
	1987-1988 Department of Trade & Industry
	1988-1989 Acting Secretary for Department of Trade and Industry
	1990-1998 Resigned own accord and joined Enga Provincial Government and worked in Business Arm as Managing Director Corp Ltd.(contracted to Pogera Mine)
	1998-2001 Enga Provincial Administrator
	2002-2007 Resigned and ran for National Election, elected Member of Parliament for Wabag Open, Enga Province
	2005-2006 Appointed Minister for Provincial Affairs by late Prime Minister Somare
	2007-2010 Re-elected again in 2007 General Election and was appointed as the Minister for Foreign Affairs, Trade and Immigration by late Prime Minister Somare
	2011- Promoted by late PM Somare to be Deputy Prime Minister and Minister for Works
	2011-Aug Late Prime Minister Somare was sick in Singapore I was promoted to be Acting Prime Minister of Papua New Guinea for 6 months Political turmoil, Nation in crisis became Deputy Opposition Leader
	2012- Left Political Life
	2013-2019 Self Employed & Church Leader
	14 July 2020 Appointed Papua New Guinea Ambassador to Japan

渡邊 信之（駐 PNG 日本大使）

11月中旬から暫く休暇を頂いて日本で過ごしました。秋から冬への急激な変化を味わい、常夏の当地との違いを痛感しました。さて、今回は日本の有償資金協力（借款契約額：269.42 億円）により建設された「ナザブ・トモダチ国際空港」について報告します。2020年7月に起工式が行われた同空港の建設は、コロナ禍の厳しい時期を乗り越え、2023年10月2日、開港式を開催する運びとなりました。そして、この文章執筆の前日の12月4日、ついに空港全体が正式稼働となりました。

ナザブ空港整備事業

ナザブ空港はモロベ州レイ市の郊外に位置します。レイ市は首都ポートモレスビーに次ぐ第二の都市で、国内最大の貨物取引量を誇るレイ港を有することや、農産品の生産地であり天然資源開発プロジェクトの位置するハイランド地域と道路でつながっていることから、産業・物流の拠点として機能している要港です。そのため、同空港の旅客需要は2026年には国内・国際線合わせて約74万人に達する見込みであると試算されましたが、それは既存施設の処理能力をはるかに超えるもので、また国際民間航空機関（ICAO）の定める安全基準にも十分対応できておらず、消防車両、保安検査機器等機材の新規調達や滑走路、エプロン、航空灯火等施設の更新等が必要でした。そこで我が国の協力により同空港を整備することとなりました。整備対象は、滑走路拡幅・強化、誘導路やエプロンの新設・強化、構内道路や駐車場等の新設、旅客ターミナルビルの新設、貨物ターミナルビルの改修、航空灯火の新設・更新、化学消防車の供与などです。施工は大日本土木とNIPPOの合弁企業が、またコンサルタントはオリエンタルコンサルタンツグローバルと梓設計の合弁企業が務めました。

トモダチ空港

2020年の起工式にはマラペ首相をはじめとする閣僚8名と地元知事他が出席し、首相自らショベルカー

を操作して鍬入れを行いました。マラペ首相は同式典で、日本の人々への感謝を表すべく日本との友好関係を象徴する新名称をつけたいとのスピーチをしました。その約束は果たされ、この空港は「ナザブ・トモダチ国際空港」と改名されました。10月2日の開港式は、やや風は強かったものの晴天に恵まれました。PNG側からはマラペ首相、ロツソ副首相はじめとする閣僚11名と地元知事、主要官僚他が出席し、日本からは堀井巖外務副大臣がはるばる駆けつけて出席しました。式典会場の特設テントに入りきれなかった地元の方々が、付近の丘の上にまでたくさん集まっていました。およそ1千人は集まっていたでしょう。来賓の方々は口々に「トモダチ空港」の名前は日 PNG 友好関係を象徴する良い名前だと話されました。またマラペ首相は、「モロベ州が道路でつながる範囲はこの国のGDPの70%に及びます。ここに日本は当国第2の国際空港を完成させてくれました」等述べ、ロツソ副首相は、「自分の父親は改修前のナザブ空港ビル建設時の工員でした。6才頃の自分は建設現場の父の周りで遊んだ記憶もあります。その思い出を胸に新空港ビルを見上げると、それは素晴らしい素晴らしい日本の方々からの贈り物です」とスピーチをされました。堀井副大臣は、「日本の支援で整備され、マラペ首相の御発案により「トモダチ」と名付けられたこの空港の開港を首相他、多くの方々とお祝いできることに感銘を受けています。この空港が両国の友好関係の象徴として友好に活用され、人々の記憶に刻まれることを期待しています」と応じました。いつか本稿をお読みの皆様にも訪れていただきたい美しい素晴らしい空港です。この場をお借りして、コロナ禍の困難を乗り越え、コロナ後の突貫工事にもかかわらず無事故記録を達成された日 PNG 双方の建設関係者の皆様、PNGの中央政府や州政府、国家空港会社等の政府関係者の皆様、また様々な協力をくださった地元モロベ州の皆様はじめ全ての関係者の方々に心より御礼とお祝いを申し上げます。



荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

来年のバザーの日程が決定致しました。

例年4月5月あたりなのですが、来年は少し早めの開催になりますので、この場において告知させていただきます。

アジア婦人会 bazaar (ALFS Bazaar)

Date: 26 March 2024
Time: 11:00-15:00
Venue: 明治記念館 (Meiji Kinenkan)

チケットの販売は来年の1月後半以降になりますが、例年通り、入場券2,000円、福引券1枚500円とな

りますので、是非とも皆様お誘いあわせの上ご来場頂ければと思います。

去年のバザーの分配金は、Abal 大使夫人により、Enga 州の Par Parish というカトリック教会のグループに女性の自立を助ける為の寄付金として60万円が寄付されました。

そこでミシンの購入や、シングルマザーの助成金に充てられた模様です。

詳細は1月以降に荻原までお問い合わせ頂ければと思います (ogiwara@png.or.jp)

ご協力宜しくお願い致します。



履歴書 - サミュエル・アバル氏 (邦訳)

家 族 マダム・アンナ・アバルと4人の子供

生年月日 1958年6月26日

教 育 1975～1979年

パプアニューギニア大学文学士号取得

パプアニューギニア大学ジャーナリズム学位取得、国際関係学ディプロマ、

ソルボンヌ大学 (IIAP)、パリ、フランス (外交研修)



キャリア

1980～1980年 ポートモレスビー外務貿易省本部

1983～1986年 パプアニューギニア駐EU代表部、ブリュッセルにて二等書記官として勤務。

1987～1988年 貿易産業省

1988～1989年 通商産業省長官代理

1990～1998年 自ら辞職し、エンガ州政府に就職。

事業部門にて Corp Ltd. のマネージングディレクターとして勤務 (ポゲラ鉱山と契約)。

1998～2001年 エンガ州知事

2002～2007年 国政選挙に立候補。エンガ州ワバグ・オープンの国会議員に選出。

2005～2006年 故ソマレ首相により州問題大臣に任命。

2007～2010年 2007年の総選挙で再選され、故ソマレ首相によって外務、貿易、移民大臣に任命される。

2011年～ 故ソマレ首相によって副首相兼工務大臣に昇進。

2011年8月下旬 ソマレ首相がシンガポールで病気のため、6か月間パプアニューギニアの首相代理に昇進。

政治的混乱、危機に瀕した国家のため野党副党首に就任。

2012年～ 政界を離れる

2013～2019年 自営業および教会指導者

2020年7月14日 駐日パプアニューギニア大使に任命

日本・パプアニューギニア協会の皆様、はじめまして。この度、入会させていただきました、株式会社日本開発サービス(以下、JDS)と申します。みなさまとお知り合いになれましたこと、大変光栄に存じます。

私どもの会社につきまして、「ごらくちょう」紙面にてご紹介の機会をいただけたとのこと、大変ありがたく存じます。私どもの活動につきまして、ご紹介させていただきます。

弊社は、1973年に財団法人国際開発センター(IDCJ)(現:一般財団法人国際開発センター)の研究員により設立後、一般社団法人海外コンサルタント協会(ECFA)の支援も得つつ、途上国の開発支援を目的として、事業展開してまいりました。大変ありがたくも、様々な方々のご高配を賜り、本年創業50周年を迎えることができました。

創業当初は、翻訳、英文タイピング、印刷の仕事をベースに、パソコン教室や募金活動の支援、国際協力イベントなど、様々な事業に取り組んで参りました。そんな中、90年代なかば、政府開発援助(ODA)における海外コンサルティング事業の道に足を踏み入れることになり、現在は、コンサルタント業務を中心に、官民連携プロジェクトやJICAの無償、技術協力案件に携わっております。

現在、弊社においては、人材育成業務も中核業務の一つとなっております。私どもは、JICAより1999年度に設立された、留学生受入事業である人材育成奨学計画(通称JDS)

の実施代理機関を努めており、ガーナ・エルサルバドル・ネパールの3か国から毎年40名ほどの留学生を受け入れております。この留学生プロジェクト名である「JDS」は奇しくも弊社と同じ名称であり、その機縁にも恵まれ、2011年にアフリカ最初のJDS対象国であるガーナを受注し、現在までに合計300名にのぼる留学生を受け入れてまいりました。

この度、JDS留学生事業が大洋州諸国を対象にするとの公示がなされ、我々はその準備調査を受注させていただいたことから、去る11月に、パプアニューギニア国へ初めての現地渡航調査を行いました。JDS事業では、先方政府の行政官をターゲットに未来の政策を担う人材育成、そして二国間関係強化を図るプロジェクトです。JDS事業説明で、ポートモレスビーの省庁を訪問させていただいた際には、みなさん熱心に事業について聞かれており、母国発展への強い意志を感じました。

初めて訪れたパプアニューギニアでは、その美しい風土と穏やかな人々に魅せられ、また心温まる歓待を受けながら、無事に調査を行うことができました。来夏より公務員留学生たちを日本に受け入れるべく、ポートモレスビーに事務所を構え募集選考を開始する見込みです。今回の事業を機縁に、パプアニューギニア国、そしてみなさま方との繋がりを得られ、心から嬉しく存じます。これからもJDSを何卒よろしくお願い申し上げます。



省庁訪問の様子(PNG銀行との打ち合わせ)



2023年10月に設立50周年式典を開催いたしました

事務局からのお知らせ

ごらくちょう81号の発行が遅れまして申し訳ございませんでした。本年ぎりぎりの発行となりました。

本年も一年間協会を支えていただき、誠にありがとうございました。コロナ禍明けの最初の行事としてアバル大使をお迎えできたことは何よりでした。

来年度にはTOKTOK会の復活、長岡火花への訪問、PNGへの研修の復活など

を考えております。

皆様の御意見やご要望を事務局までお寄せいただければ来年度の行事に検討して参りたいと思います。

それでは、皆さま良いお年をお迎えください。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員: 24社 ◆ 個人会員: 103名 (2023年12月25日現在)

お問い合わせ先

日本・パプアニューギニア協会
事務局

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン(株)内
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生、PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクビ ニホン パプアニューギニアキョウカイ